

ザ・クインテッセンス／2011. 10月号

○動き出した光機能化／インプラント医療パラダイムシフトの世界的前兆

(小川隆広・船登彰芳)

*光機能化技術の開発は、チタンの生物学的老化というインプラント界における新たな肺の発見から生まれたもので、光機能化を応用することにより、インプラントの骨結合能力を一気に高めようとするものである。第1回では、光機能化の背景と理論と実例や文献紹介と臨床報告が掲載された。今月号掲載の第2回ではさらにいくつかの症例を紹介し、臨床プロトコルの考察、臨床統計学的報告をしている。光機能化インプラントが骨結合に対して優位に働くことにより、早期負荷や即時負荷など適応の範囲が広がる可能性が示されたが、その有用性と今後の臨床報告に期待したい。

○歯科材料に強くなるレベルアップ講座 第4回 咬合採得材に強くなる(中村健太郎)

*製作されたクラウンを口腔内に装着しようとする、咬合接触関係に問題があり咬合調整を余儀なくされ、意図する咬合面形態の付与ができないことがある。精度の高い補綴臨床を求めてシリコン系の咬合採得材を使ってもよい結果が得られない疑問に答えている。筆者は、精度が低くなる咬合採得の原因は何か?精度を高くするにはどうしたらよいのか?ということに対して、それぞれ4つのポイントでわかりやすく解説している。

日本歯科評論／2011. 10月号

○＜特集＞インプラント治療における問題とその対応

—何をすればよいのか? してはならないのか?— (春日井昇平 申 基詰 他)

*インプラント治療が増えてくるに、つれささまざまな問題が起こってきました。外科処置、補綴処置、審美に関わる問題とその対応、それを回避するためにはどうするか、そしてメンテナンス時にインプラント周囲炎の予防と対処法など詳しくまとめています。インプラント治療をされている先生には必読の内容です。

○歯科用 CBCT 読像・診断に基づいた歯科臨床

序・歯科用 CBCT の特徴と適切な活用 (下島孝裕)

1. 口腔外科領域への歯科用 CBCT の活用 (佐々木妥啓 他)

*コンピューター断層撮影(CT)が歯科に導入され始めてしばらくたちます。当初はインプラント埋入のための診断が中心でありましたが、いろいろな活用法が提案され始めました。連載第一回は口腔外科領域での CBCT の活用について症例を提示して解説しています。

デンタルダイヤモンド／2011. 10月号

○実践歯学ライブラリー／プロビジョナルレストレーションの重要性 (植松厚夫)

*患者さんの審美的要求が高まりを見せる近年、最終補綴物を考慮したプロビジョナルレストレーションの重要性は大きくなっています。この特集では一時的な補綴物であるテンポラリーレストレーション(テック)ではなく、プロビジョナルレストレーションの作り方や調整・形態修正の実際など、リアルな美しさを実現するためのキーポイントを紹介しています。テックから脱し、プロビジョナルレストレーションに移行するために、スタッフにも読んでほしい内容です。

○歯内治療の勘所とトラブルシューティング／歯周・歯内複合病変に対する診断と

治療のポイント(高橋慶壮)

*歯周・歯内複合病変は治療が困難であることが多いのですが、治療方針は「歯内療法を行って予後を観察し、必要に応じた外科的歯内療法あるいは歯周外科を行う」こととなります。著者は病変をより詳細にリスク評価を行い、リスク管理を行うことでより良い治療と予後を得られることを示しています。

歯界展望／2011. 10月号

○特集／インプラントと天然歯を連結した補綴計画を考える

理論的背景からの考察(平 曜輔 澤瀬 隆)

長期経過症例からの考察(森永 太)

*インプラントと天然歯の連結については、歯根膜の有無による力学的な観点から否定的な見解が一般的と思われる。しかし、临床上ではこのような補綴設計が出来ればという場面もあるでしょう。この特集では、インプラントと天然歯の生体力学的な相違点は何か、また連結した補綴物の生存率はどの程度で、どのような合併症が起こるのかを、検証して、どのような点に注意すべきか述べている。

○ノンクラスプデンチャーの適応症と設計—ポリアミド系樹脂製を中心に—小林茂之

審美的利点やシンプルな構造から普及してきている。しかし咬合支持を維持できないという批判も多い。ノンクラスプデンチャーの適応の基本や、材質および構造上の欠点を把握し、患者に提供する事が、もっとも大切であろう。特徴を知り、患者に説明し、同意納得が得られれば、臨床上有益な補綴方法と考えている。